

全工協が設立50周年記念式典開催

加藤電気工業所など29個人・団体が記念表彰

社団法人全国船舶無線工事協会（全工協）、石井孝会長は6月21日、都内で「第48回通常総会」を開催し、平成21年度事業報告・決算報告および平成22年度事業計画・収支予算案、役員を選任および解任等を審議、了承した。

続いて同協会の設立50周年記念式典が開催され、冒頭であいさつに立った石井会長は、「当協会が無事50周年を迎えられたのも関係各位と会員の方々のお蔭だと考えている。その感謝の意味を込めて、本日、29個人・団体の表彰を行う。また振り返れば、諸先輩方の貴重な功績によっても当

協会はいままで歩いて来られた。その歴史を今一度回顧する意味で、このほど協会の50年史を編纂し、本日の式典の直前に完成した。当協会の発展の糧とする意味でも、会員各位は是非一読していただきたい。協会を取り巻く経済環境には厳しいものがあるが、さらなる

未来へ向けて、乗り越えて行く所存だ」と、節目の年を迎えての感慨と、今後の抱負を述べた。

続いて来賓として招かれた総務省総合通信基盤局の吉田靖電波部長があいさつ。「無線通信の歴史は海上から始まった。マルコニーが1899年にドーバー海峡横断の無線通信の成功して以来、無数の海難事故救助に役立てられてきた。わが国においても、全工協の努力もあって、漁業・海運業環境の整備がさまざまに進んできた。総務省でも海上無線通信の整備・

普及に向けて、さまざまな施策を展開している。昨春秋には、船舶システムの違いによる通信障害を克服するための『国際VHFを使用した船舶共通通信システム』を構築した。これは国際的に普及しているものを日本に持つてくるという逆転の発想から生まれたもので、今後の普及を期待したい。また『海上でも安心したい』と語った。

巨副会長は、「当協会は50年にわたって、総務省の協力を得て、通信インフラ整備の一翼を担ってきた。そして私自身も先輩方の活躍を目の当たりにしてきた。50周年史の編纂に際しても、諸先輩方の多大な協力を得られて感謝の言葉もない。今は、協会の60年、70年へ向かっでの発展を祈念したいと思う」と語った。

式典では続いて、「設立50周年」会長表彰が行われ、以下の29個人・団体が表彰状を授与された。

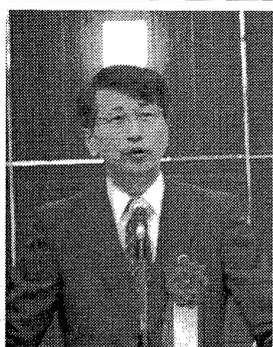
▽感謝状・個人▽鈴木務（全工協顧問、電気通信大学名誉教授、日本工業大学名誉教授）、中村勝英（水洋会事務局長）、▽感謝状・団体▽今治造船、加藤電気工業所、新



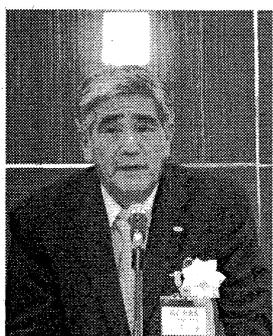
式典のもよう（壇上はあいさつする石井会長）



表彰式



祝辞を述べる吉田電波部長



菊川副会長のあいさつ

来島とつく▽表彰状・事業発展▽岩重直郎（元太平洋無線）、高梨良一郎（日本無線）、中島隆（中島電気）▽表彰状・本部役員▽秋山敏男（日立無線）、上村安弘（上村特電）、大野晃（大野電装）、納村篤廣（共栄無線）、川崎忠（川崎電機）、佐藤猛雄（苫小牧無線）、中郡正夫（三共無線電機商会）、土居喜久生（土居無線工業所）、原勝正（中和電機公司）、古田一雄（フルタ無線電機）、丸山裕介（日本電波興業）、山本雄三（伊勢電波工業）▽表彰状・支部役員▽石本房光（フールノ九州販売佐世保営業所）、工藤豊（東京商會）、尾野太兵衛（昆野無線）、高橋洋平（高橋無線工業所）、玉城正利（興発電子産業）▽表彰状・職員▽市川良一（前技術部長）、佐々木富男（元専務理事）、竹田哲男（元顧問）、橋本勇（前九州支部事務局長）

7月5日付電波ムズより